

地域振興会議資料 資料2	
年月日	令和6年8月29日
担当課	地域振興課

気高地域未来プラン（たたき台2）

多様なライフスタイルで暮らせる

「気ぶん☆さい高、ときめきのまち」気高町



令和6年〇月

気高町総合支所

目 次

- 1 策定の趣旨、計画の期間・・・・・・・・・・P3
- 2 地域の現況：位置・地勢・土地利用、人口・・・P3～4
- 3 地域の特性・資源・・・・・・・・・・P5～6
 - (1) 歴史
 - (2) 特性
 - (3) 資源
- 4 地域の現状と課題と方向性・・・・・・・・・・P6～8
 - (1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持
 - (2) 地域産業の活性化と雇用の確保
 - (3) 魅力ある地域づくり・人づくり
 - (4) 交流による活性化と移住定住の推進
- 5 気高町がめざす将来像・・・・・・・・・・P8



1 策定の趣旨、計画の期間

平成26年8月に策定した鳥取市新市域振興ビジョン（以下、振興ビジョン）は、新市域の10年先を見据えた地域の特性を活かしたまちづくりの方向性を示すものとし、令和5年度末で計画期間満了となりました。

今後も引き続き、気高地域の特色ある地域づくり、課題解決に向けて必要な施策について、鳥取市中山間地域対策強化方針（以下、強化方針）に織り込むとともに、気高地域の新たな地域未来プランを策定するものです。

また、この地域未来プランに掲げる「めざす将来像」や「現状や課題」は、気高地域の将来を見据えて、今後取り組む方向性を示すものであり、具体的な事業内容については、気高地域未来プラン実施計画（仮称）に基づき進捗管理を行います。

計画の期間は、令和7年度から令和11年度の5年間として、必要に応じて見直しを行います。

2 地域の現況

（1）位置・土地利用等について

○気高町は鳥取市北東部に位置し、面積は34.31k㎡で鳥取市全体の約4.5%を占めています。気高町の地形を概観すると、町全図をみてもわかるように、河川の浸食し残した山地と、その谷筋を埋めている沖積平野・海岸・砂丘に区分することができます。

○気高町は概ね海岸部に位置し、山はすべて河川が浸食し残した高地であるため、高い山はありません。気高町の谷を次々と浸食してきた河内川が最も大きく、ほかに浜村川、永江川などがあります。

○土地利用では、森林が約5割を占め、残りは農用地、宅地など5割が平地となっています。平地では水稻栽培が中心ですが季節の野菜づくりも盛んで、大豆や長ネギ等の栽培にも力を入れています、山地では果樹の栽培が行われていますが減少傾向にあります。日光集落では約400年の歴史がある特産の「日光生姜」が栽培され「瑞穂生姜」へと栽培地域に広がりがみられます。

（2）人口について

○平成16年の合併時には9,930人でしたが、令和5年12月末には8,028人となりました。約19年間で1,902人減（19.15%減）となっています。一方、世帯数は、核家族化の進展等により、合併時の平成16年の3,062世帯から現在では3,352世帯と290世帯増（9.4%増）となっています。

また、高齢化率は令和5年10月1日現在、36.1%となっています。

※65歳以上の高齢者数

男性1,234人、女性1,685人、計2,919人 / 8,185人

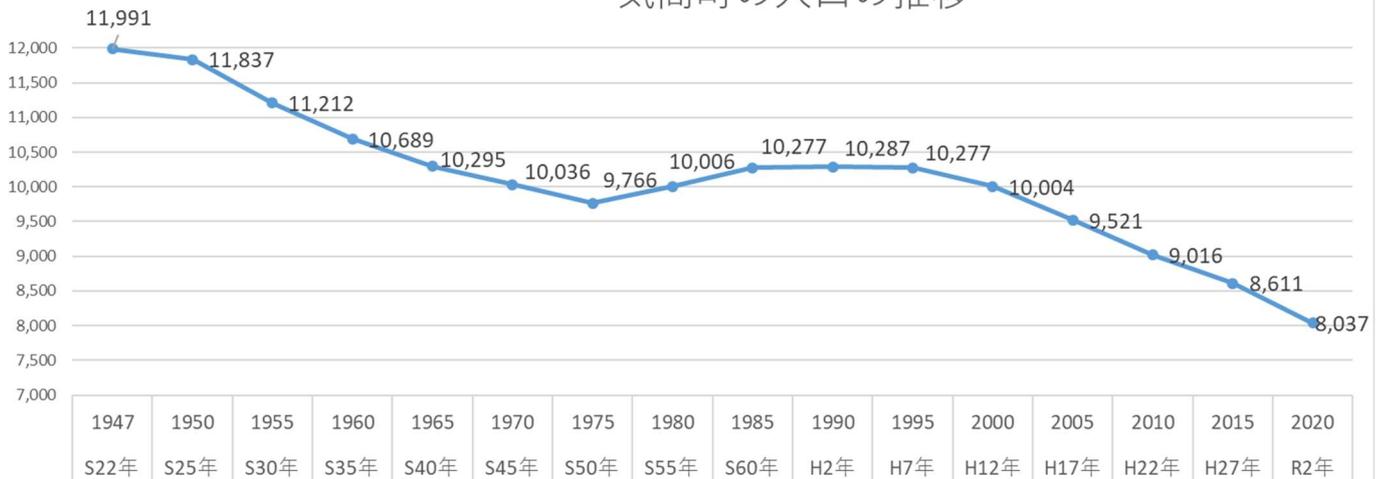
令和5年10月1日現在	気高地域(全体比)	鳥取市
人口	8,185人 (4.46%)	183,590人
世帯数	3,351世帯(4.10%)	81,749世帯

鳥取市全体の人口 H16(合併時) 200,532人 △16,942人 △8.4%

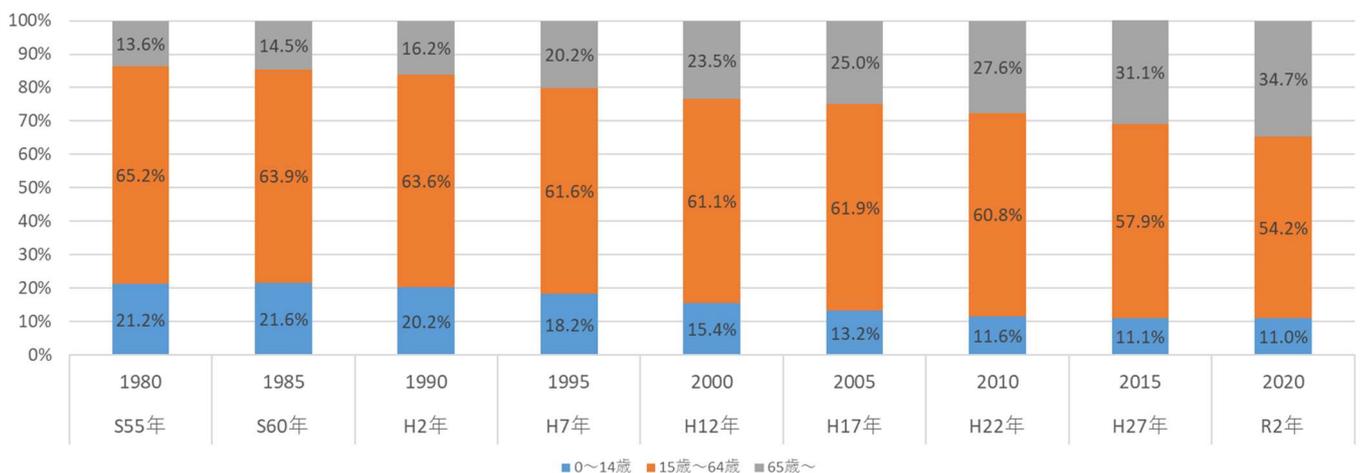
気高地域の少子・高齢化の状況(国勢調査)

区分	人口	増減率	少子化の状況		高齢化の状況	
			15歳未満	率	65歳以上	率
平成2年(1990)	10,287人	-	2,080人	20.2%	1,666人	16.2%
平成7年(1995)	10,277人	△0.1%	1,870人	18.2%	2,074人	20.2%
平成12年(2000)	10,004人	△2.7%	1,542人	15.4%	2,348人	23.5%
平成17年(2005)	9,521人	△4.8%	1,256人	13.2%	2,376人	25.0%
平成22年(2010)	9,016人	△5.3%	1,044人	11.6%	2,489人	27.6%
平成27年(2015)	8,611人	△4.5%	955人	11.1%	2,671人	31.1%
令和2年(2020)	8,037人	△6.7%	886人	11.0%	2,791人	34.7%

気高町の人口の推移



気高町の年齢構成の推移



3 地域の特性・資源

赤字：新たに追加した項目

(1) 地域の歴史

町内から発見された遺物などから、少なくとも先土器時代から縄文時代まで遡ることができると言われていています。中世末には、鹿野城主亀井茲矩公の治世下にあり、日光池の干拓が行われ、また、今日まで伝わる日光の生姜や逢坂地区の睦逢大堤池のうぐい突きも亀井公の朱印船貿易によって東南アジアから伝えられたとされています。亀井公の墓地は、田仲集落にあります。明治、昭和の時代に数回の合併を経て気高町が昭和30年(1955年)7月に誕生しました。その後、20世紀から21世紀へと時代の大きな転換期を迎え、地方分権の推進、生活圏の広域化が進む中、合併協議が重ねられ、平成16年(2004年)11月、気高町を含む鳥取県東部8町村と鳥取市との合併により鳥取市となりました。

(2) 地域の特性

南は因幡富士と呼ばれる鷲峰山を仰ぎ、北には日本海を望む、美しい海岸線が続いています。世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの「浜村海岸ジオサイト」と「鹿野ジオサイト」に位置付けられています。

国道9号線及びJR山陰本線が東西を横断し、鳥取砂丘コナン空港や鳥取市中心市街地へのアクセスも便利で、山陰道鳥取西道路の全線開通や2つのインターチェンジの設置、道の駅「西いなば気楽里」の完成によりさらに利便性が向上しています。

浜村地区では、高速道路網の整備をはじめスーパーマーケット、ホームセンター、ドラッグストア、金融・医療機関など生活関連施設が整った利便性の高い町として住宅建設が進んでいます。

「浜村温泉」があり、貝がら節の里として夏には「貝がら節祭り」を開催するなど唄と踊りを伝承する取り組みを町内全域で行っています。

(3) 地域の資源

・特産品は、「酒津の塩さば」をはじめ、約400年の歴史のある「日光生姜」に「瑞穂生姜」、美しい田園風景と有機米などの米づくりが盛んです。

・観光資源としては、浜村温泉をはじめ景勝地の「魚見台」・「龍見台」、平成の名水百選の「布勢の清水」(殿)、因伯の名水の「お地藏さんの水」(睦逢)、「ヤサホーパーク」(浜村砂丘公園)、「両国梶之助墓所」(宝木)、「文芸の小径」、「山宮阿弥陀の森大タブノキ」などがあります。

・イベントは、貝がら節祭り、気多の市、気高ときめき祭り、しょうがぼかぼかフェスタ、浜村温泉湯けむり映画祭があります。

・亀井茲矩公の歴史的業績と関連した資源があります。

・因幡の菖蒲綱引き（宝木、水尻：昭和62年指定、国指定重要無形民俗文化財）、酒津のトンドウ（平成19年指定、国指定重要無形民俗文化財）、大堤池のうぐい突き（令和2年指定、県指定無形民俗文化財）、百手の神事（昭和34年指定、県指定無形民俗文化財）など伝統行事を地域で大切に受け継いでいます。

・逢坂地区の陸逢大堤池の土手には保存会を中心に芝桜の植栽活動を行い、春には多くの市民を楽しませています。

・逢坂地区を活動拠点としている逢鷲太鼓連は、結成30年以上活動を続けています。

・町内には、新鮮な魚介類が水揚げされ、夏には岩ガキなども獲れる酒津・船磯の漁港があります。冬には船磯漁港内でワカメの収穫祭があり、多くの市民で賑わいます。

※5つの柱から4つの柱に見直しをしています。
振興ビジョン5つ→中山間地域強化方針4つの柱へ見直し。

4 地域の現状・課題と方向性

当初（鳥取市新市域振興ビジョン）	見直し案（鳥取市中山間地域対策強化方針）
(1) 交流のまちづくり (観光、地域経済の活性化、人との交流、情報発信など)	(1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持 (教育・子育て、交通、情報発信、防災、自治会)
(2) 新しい風のまちづくり (温泉街の再生、人口減少への対応、持続可能な地域)	(2) 地域産業の活性化と雇用の確保 (農林水産業、商工業、企業誘致、雇用確保)
(3) 地域産業のまちづくり (農水産業、商工業、企業誘致)	(3) 魅力ある地域づくり・人づくり (地域団体等との連携、人材の育成、文化・芸術)
(4) 教育・文化のまちづくり (教育、文化・芸術)	(4) 交流による活性化と移住定住の推進 (観光、地域経済の活性化、温泉街の再生、定住促進)
(5) 安心・安全のまちづくり (防災、自治会、交通、生活環境、子育て)	

(1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持 (教育・子育て、交通、情報発信、防災、自治会)

人口の減少・過疎化の進行、激甚化する災害や巧妙化する犯罪の増加などにより日常生活への影響、持続可能な地域運営が脅かされています。

こうした社会情勢の変化や複雑かつ多様化する市民ニーズに対応するために行政、福祉関係、自治会と市民が共に助け合い、支え合いながら、課題を解決していく必要があります。

また、町内の4つの小学校の学校統合の進展により、次代を担う子どもたちの教育環境の充実を図ります。

地域に暮らす全ての人々が安全に安心して暮らし続けられるまちづくりを目指し

ます。

【現状と課題と方向性】

※気高地域では、下線の事業を重点事業として取り組む予定です。

○小学校統合によるまちづくり

- ・ 4校の学校統合による地域一体型の教育環境の充実
- ・ 廃校舎の活用方法の検討、有効活用の支援

○地域防災力の向上

- ・ リーダーの養成、地域の実情にあった防災対策の強化
- ・ 災害時に備えた訓練の充実、各種機関との連携強化

○地域交通の維持

- ・ 気高循環バス、路線バス、J Rの利用促進
- ・ 買い物支援対策のための地域交通の充実

○自治会加入率の低下

- ・ 加入率向上にむけた支援・促進

○宝木駅・浜村駅の駅舎の有効活用

- ・ 利活用の検討、賑わいづくりの促進

○中学校の地域部活動移行への対応

- ・ 地域の実情に合わせた受け皿づくりに向けた連携・支援

(2) 地域産業の活性化と雇用の確保

(農林水産業、商工業、企業誘致、雇用確保)

田園が広がる気高地域にとって最大の地域産業である農業を取り巻く環境は、ますます厳しくなっており、耕作放棄地の対応、担い手の育成などが課題となっています。新たな取組として創意工夫を凝らした特産品の開発、企業の農業参入も視野に入れた組織化による後継者の確保、新たな販売ルートの模索などさらに漁業や観光を含めた地域産業の活性化を図り、雇用の確保をめざします。

【現状と課題と方向性】

○担い手の育成、農地の保全・維持

- ・ 関係機関との連携強化、民間組織の活用・営農組織化の支援による担い手育成支援
- ・ 転作作物の生産拡大の支援

○地域資源を活用した新たな産業振興と特産品の開発

- ・ 温泉を活用した新たな特産品づくり、新たな起業支援、情報発信の充実
- ・ 地域資源の新たな掘り起こしと試作品づくり、ブランド化に向けた組織づくり

○企業誘致の促進、働く場の確保

- ・ 豊かな自然環境、安価な土地、有休施設の活用など、地域の優位性を活かした企業誘致活動の促進
- ・ 農業・漁業など地域産業の強化による雇用創出の促進

○環境にやさしい資源の有効活用によるサステイナブルなまちづくり

- ・地域の再生エネルギー源の有効活用、スマートエネルギータウン構想の推進

(3) 魅力ある地域づくり・人づくり

(地域団体等との連携、人材の育成、文化・芸術の推進)

人口減少が進む中、地域の担い手、空き家の増加などにより、将来にわたり持続した地域づくりが重要な課題となっています。そのためには、住民自ら主体的に取り組む「小さな拠点」の機能形成と地域運営組織の体制強化を図り、地域の資源や恵みを最大限に活かすことのできる地域づくりや人づくりの活動を推進します。

【現状と課題と方向性】

○地域の担い手育成

- ・次代を担う若者との交流支援
- ・人材バンク的な組織の検討

○映画を通じた文化芸術の推進

- ・映画によるまちづくりのための上映会の開催や機運醸成の支援
- ・映画ロケの誘致支援

○伝統芸能・伝統行事等の維持・継承

- ・民謡貝殻節・踊り、国の指定文化財をはじめとする文化財の保存伝承活動の支援
- ・民謡貝殻節レコード発売100周年（2033年）に向けた機運醸成の支援

○小さな拠点づくりの促進

- ・浜村・逢坂地区での取組み・継続の支援、取組地域の拡大

○まちづくり協議会を核とした地域の魅力と活力の向上

- ・集落とまちづくり協議会との連携による活動の支援

○公共施設の利活用

- ・老朽化した社会教育施設など公共施設の今後のあり方の検討
- ・公園等の既存施設の有効活用

(4) 交流による活性化と移住定住の推進

(観光、地域経済の活性化、温泉街の再生、定住促進)

気高地域の賑わい創出・活性化を図るためには、交流人口の拡大は重要な課題です。令和元年5月に全線開通した山陰道鳥取西道路と同年6月にオープンした道の駅「西いなば気持楽里」をきっかけにして新たな交流が生まれています。地域資源である民謡貝殻節や温泉を利活用した交流を促進するとともに、移住定住を推進します。

【現状と課題と方向性】

○地域にある観光資源の利活用

- ・鳥取西地域への世界ジオパークエリア拡大（平成26年）を活かした観光資源の開

拓・観光体験ツアー・観光ルートの開発

- ・山陰道鳥取西道路全線開通と「道の駅西いなば気楽里」開設による3町連携による新たな交流の促進、**情報発信の充実**
- ・**温泉を活用した足湯や気軽に入れる温泉施設の検討など多様な活用法の検討**

○浜村温泉街の再生

- ・地域との連携による魅力ある温泉街の再生
- ・約140年の歴史ある浜村温泉をたどる街歩きルートの検討など保存継承
- ・明治の文豪小泉八雲が訪れたゆかりの地としての**情報発信**

○定住促進、空き家・空き店舗対策

- ・関係機関との連携強化による情報収集、**情報発信**
- ・増加する空き家、空き店舗の解消に向けた組織の支援・強化、にぎわいの創出

○情報発信力の向上

- ・地域内の貴重な資源、行事などの**情報をデジタル化**し、SNS等で地域内外に**情報発信**

5 めざす将来像

気高地域が目指す将来像として

「**気ぶん☆さい高、ときめきのまち**」気高町を掲げ「多様なライフスタイルで心豊かに暮らせるまちづくり」をめざします。

浜村温泉、美しい海岸線や鷲峰山、田園風景などの自然の恵みを活かし、国の指定重要無形民俗文化財の「因幡の菖蒲綱引き」（子どもたちが綱引きを行う）、「酒津のトンドウ」（正月の伝統行事）や民謡「貝殻節」などの歴史、文化財の保存伝承活動を行いながら地域の力と誇りを高め、魅力的で創造力のあふれた、安全で安心な気高町をめざします。**また、令和元年に山陰道鳥取西道路の開通効果により、鳥取市中心部や倉吉方面への通勤をはじめ、買い物などの利便性が向上し、これまで以上に多様なライフスタイルで暮らせる気高町をめざします。**

≪これまでの会議（7月開催）で提案した内容≫

■ 交流のまちづくり(観光、地域経済の活性化、人との交流、情報発信など)

現状と課題

○情報発信力の向上

- ・地域内にある貴重な資源、行事などの地域内外に効果的な情報発信
- ・訴求対象者に合わせた情報発信が重要

○観光ルートの開発

- ・平成26年、気高地域の世界ジオパークへエリア拡大
- ・令和元年の山陰道鳥取西道路全線開通と「道の駅西いなば気楽里」開設による新たな交流

○温泉の有効活用

- ・地域資源である温泉の多様な活用

■2 新しい風のまちづくり(温泉街の再生、人口減少への対応、持続可能な地域)

現状と課題

○浜村温泉街の再生

- ・地域との連携による魅力ある温泉街の再生

○映画を通じた文化芸術の推進

- ・取組みから10年が経ち更に地域に根差した映画によるまちづくりが重要

○定住促進、空き家・空き店舗対策

- ・関係機関との連携強化による情報収集、情報発信が重要
- ・増加する空き家、空き店舗の有効活用によるまちのにぎわいに繋げる

○小さな拠点づくりの促進

- ・浜村・逢坂地区での取組みの支援、取組地域の拡大

■3 地域産業のまちづくり(農水産業、商工業、企業誘致)

現状と課題

○耕作放棄地の増加

- ・関係機関との連携強化、担い手の育成支援

○特産品の開発

- ・地域資源の新たな掘り起こしに向けた組織づくり、情報発信の充実

○働く場の確保

- ・農業・漁業など地域産業の強化による雇用創出の促進

■4 教育・文化のまちづくり(教育、文化・芸術)

現状と課題

- 小学校統合によるまちづくり
 - ・4校の学校統合による教育環境の充実
 - ・廃校舎の活用方法の検討
- 民謡貝殻節・踊りの保存伝承
 - ・2033年、民謡貝殻節レコード発売100周年に向けた機運醸成
 - ・保存伝承活動の充実
- 中学校の地域部活動移行への対応
 - ・地域移行に対する地域での受け皿づくりの協力・支援

■5 安心・安全のまちづくり(防災、自治会、交通、生活環境、子育て)

現状と課題

- 地域の担い手不足
 - ・人材バンク的な組織の検討
- 買い物難民の増加
 - ・地域内交通の活用、情報収集・情報発信
- 地域交通の維持
 - ・路線バス、気高循環バスの利用促進
 - ・公共交通機関の利用促進